

中学校 第2学年 数学科 単元名「平行と合同」

1 本単元で人権教育を進めるにあたって

本単元は、観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質について、その既習の内容を利用して新たな図形の性質を見いだすなど、論理的に筋道を立てて推論することができるようになること、さらに、根拠となる事柄を基に自分の言葉で筋道を立てて説明する能力を身に付けることができるようになることをねらいとしている。

既習の内容を踏まえ、活動を通して新たな事実を見いだしていくことは、人権教育で学んだ知識を生かして、実際の生活の中でよりよい自分の行動を導き出していくことにつながる。また、筋道を立てて考え、表現していくことは、自分の考えを適切に表現するコミュニケーション能力の育成につながると考える。

この学習をすすめる、根拠を明らかにし筋道を立てて説明し伝え合う活動や、それぞれの考え方に共感し、考え方を活用する場を設定することで、様々な意見を肯定的に受け止めようとする態度や、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせたい。

2 単元の目標

平行線や角の性質に基づき、図形の性質を確かめ、説明することができる。
平面図形の合同の意味や合同条件について理解し、根拠を明らかにして筋道を立てて説明することができる。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

- これまでに学習した事を活かして、自分の考えを合理的に分析し、新たな自分の意見を見出し、それを伝えることができる。（技能的側面）
- お互いの意見を聞くことで、自他の存在を認め、様々な意見を肯定的に受け止めようとする。（価値的・態度的側面）

4 指導のポイント

(1) 人権感覚を育てる上で大切にしたいポイント

- 個人で考える時間を確保し、その考えを班で伝え合えるようにする。
- 班での活動において、お互いの意見を出し合い、考え方を認め合うことで自分たちの意見を練り上げていけるようにする。
- 班活動の時間を確保し話合う活動を充実させることで、課題解決に向けた多様な考え方があることを知り、さらに新しい自分の考え方を見いだせるようにする。
- 日常生活の中で、根拠を明らかにして筋道を立てて説明させたり、互いの意見の違いを認め合ったりする活動を取り入れていく。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

- ①自己存在感
自分で考え出した意見を大切にできるように、その考えを認め、分かりやすく班で説明できるような支援をする。
- ②共感的人間関係
お互いの考えを大切にできるように、班での意見発表の中で、自分の意見も大切にしながら、周りの意見もしっかりと聞くよう支援する。
- ③自己選択・決定
お互いの意見を出し合い、そこからよりよい意見へと、練り上げていけるように話し合いの場を確保する。

5 学習の流れ

(1) 指導計画（12時間取り扱い）

学習活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
1 多角形の内角の和の求め方を考える。【2時間】	○内角の和の求め方を、いろいろな方法で考えさせ、お互いの意見を聞き合わせることで様々な方法で解けることを知る。
2 対頂角、同位角、錯角と平行線との関係を知り、角の大きさを求めることができる。【3時間】 (本時3/3)	○個人で考えた角度の求め方を、班で話し合わせ、練り上げ、発表させるようにする。 ○お互いの意見を出し合い、考え方をまとめる中で、互いの考え方を理解しあえるようにする。
3 平面図形の合同な図形の意味や性質を理解する。	○実際の図形を使い、合同を確かめ、合同な図形の性質を確かめるようにする。
4 三角形の合同条件を見だし、証明することができる。【3時間】	○発表で出た意見を全員で確認させ、それぞれの考え方や考え方のよさなどを理解できるようにする。
5 仮定と結論を理解し、証明の根拠を明らかにすることができる。【3時間】	○証明を論理的に筋道立ててできるように、根拠をはっきりさせ、発表させる。

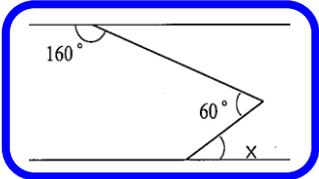
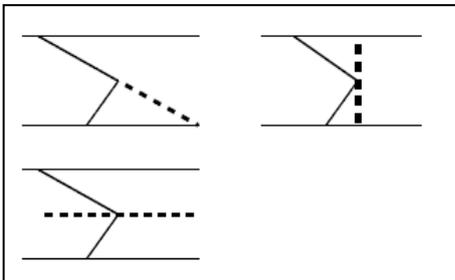
(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例 (5 / 12 時間目)

目標

◇対頂角や平行線の性質を利用して、角の大きさを求めることができる。

人権教育で育てたい資質・能力

◆お互いの意見を聞くことで、自他の存在を認め、様々な意見を肯定的に受け止めようとする。

主な学習活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
<p>1 前時までの復習をする。</p> <p>2 課題を把握し、見通しをもつ。</p> <p>いろいろな考え方で角の大きさを考えてみよう</p>	<p>○フラッシュカードを使い、図形の性質を分かりやすく、全員で確認する。</p> 	<p>フラッシュカード</p> <p>課題1 プリント</p>
<p>3 角の大きさを求める。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) グループ内で発表する。</p> <p>【補助線の主な例】</p>  <p>(3) クラスでそれぞれの方法のよさを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・錯角の利用 ・内角の和の利用など <p>4 複雑な問題をより良い方法で解く。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 班でよりよい解決方法について話し合う。</p> <p>(3) クラスで意見を共有する。</p>	<p>○個人で考え、班でお互いの意見を発表し、クラスで発表する手順を確認する。</p> <p>○学習シートをもとに、補助線の入れ方、多角形の内角の和、対頂角や平行の性質をどのように活用したかななどを班員に伝えるようにする。</p> <p>○様々な考え方によって解決できることを知り、それぞれの考え方のよさを別の問題に活かすことができるようにする。</p> <p>◆お互いの考え方を理解し、自分の考えを見つめ直すことができる。</p> <p>○よりよい解決方法について、お互いの意見を聞き、質問や意見を通して班としての意見をまとめさせる。</p> <p>◇対頂角や平行線の性質を使い、角の大きさを求めることができる。</p>	<p>課題2 プリント</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○既習の内容を活用することや根拠をもとに自分の考えを説明することのよさにふれる。</p>	